

令和4年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	3年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価（2月21日実施）		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価（3月17日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①自己効力感を高め、他者を尊重する姿勢を育成する教育活動を行う。</p> <p>②生徒が自ら学び考える学習指導・支援に組織的に取り組み、生徒一人ひとりの進路等の目標を実現させる。</p>	<p>①「学習指導」と「学習評価」の一体化を図り、教員の指導と生徒の学習の改善に繋がる組織的な取組を実現する。</p> <p>②令和4年度入学生から始まる一人一台端末による学習活動で環境面が大幅に改善されるため、活用させる側のスキルアップを図り、有効活用を実現させる。</p>	<p>①公開研究授業及び研究協議会、教員対象授業参観期間、情報交換会・研修会にて情報共有を図る。</p> <p>②教科等の枠を超えてOJTを通して全教員のスキルアップを継続する。</p>	<p>①生徒及び教員対象の各種アンケート等における肯定的な回答の割合等</p> <p>②授業時間及び授業時間外に活用できる学習手段の提供が効果的に行えたか。</p>	<p>①各教科の授業改善テーマによる授業公開を10～11月に設定し、県立高校指定事業として公開研究授業を実施した。また、初年度の研究を報告集にまとめ、外部に発信した。生徒による授業評価アンケートでは、どの教科でも満足度が高い結果が出ている。</p> <p>②OJTを通して全教員のスキルアップを継続的に組織的にできた。</p>	<p>①県立高校指定事業について、1年生の教科担当者を中心に牽引した初年度の取組を職員全体で共有するとともに、同一テーマ研究推進校4校との連携を通じて、次年度の研究の充実を図りたい。</p> <p>②提供した学習手段について、生徒が自宅等でもICT等を活用して十分活用できたかを検証する必要がある。</p>	<p>①指導と評価の一体化に向けて、教員のねらいと生徒の声を比較し、効果的な指導を追求してほしい。肯定的な意見が多いアンケートについては、否定的な声もあつたことを忘れず、引き続きの教育をお願いしたい。</p> <p>②校内授業研究や研修会の真摯な取組を継続するとともに、一人一台端末の効果的な活用方法を模索し、生徒の学力向上等に繋げてほしい。</p>	<p>①昨年度同様、各教科のフリック入力や端末の設定により、取組の実情に合った一人一台端末の活用ができた。総合的な活用時間は有効活用できたが、各教科での活用方法は模索を続ける必要があり、指導と評価の一体化についても、特に「主体的に学習に取り組む態度」の公正な評価方法の研究を継続したい。</p> <p>②ICT環境がかなり整い、OJTを通して全教員のスキルアップを実現できた。引き続き、生徒のニーズや実態にどの程度対応しているかについて検証が必要である。</p>	<p>①生徒はスマートフォンのフリック入力は得意だが、タブレットのキーボード配列には慣れていない。多角的な視点からタブレット活用のアイデアを募り、模索していきたい。指導と評価の一体化は、他校の取組を参考に、実施可能なものは積極的に導入する挑戦を繰り返し、逗葉山高校の実態に合う方法を探る。</p> <p>②令和4年度入学生から始まった一人一台端末の活用方法を整理し、スマホよりも有効な使用方法を具体的に例示する。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>①他者尊重を基盤に、生徒の規範意識を醸成し、自律した行動を取れる力を育てる。</p> <p>②組織的な教育相談体制を充実させ、生徒一人ひとりが安心できる支援を行う。</p>	<p>①規範意識の必要性を生徒に理解させ、適正な行動を考えさせる。</p> <p>②支援的観点の理解を深め、個々の生徒の支援にいかす。</p>	<p>①他者尊重の大切さを伝え、生徒自らが振り返り考える機会をつくる。</p> <p>②生徒状況調査を実施し、生徒情報を共有し、組織的に対応する。</p>	<p>①学年や、授業・部活動等の担当者の自己評価、生徒の振り返りの結果</p> <p>②学習時や学校生活等における生徒支援の状況</p>	<p>①規範意識全般について各HRや全校放送を通じて指導することができた。</p> <p>②生徒状況調査を実施し、サポート会議・学年・全職員という段階を経て、情報共有ができた。</p>	<p>①学校生活アンケートの継続と情報収集・共有の継続。</p> <p>②生徒個々に必要な支援的観点の共通理解。</p>	<p>①アンケート調査の有効活用と情報共有を支援し、生徒への支援が図られている。生徒の生き生きとした所作はこれら成果の現われの一つと言える。</p> <p>②組織的な指導の充実のために教職員の現職の課題の解決に向けて早急に次年度の計画を策定し、生徒の居場所及び絆づくりに繋げてほしい。</p>	<p>①規範意識と他者尊重に基づく適正な行動について、年間を通じて、HRや各集会にて絶えず生徒へ問いかけを行い、内発的な動機付けを行った。</p> <p>②スクールカウンセラーとも連携し、生徒が充実した学校生活を送れるよう一人ひとりに対応した支援に努めた。職員間の支援方法の共通理解を深めていく。</p>	<p>①学校全体の共通意識を固めながら、引き続き外発的指導のみならず内発的なアプローチについて考察し実践していく。</p> <p>②サポート会議やケース会議を通して個々の生徒に必要な支援方法を検討し、生徒の状況や困り感の共通理解を深める。生徒状況調査を継続して実施する。</p>
3 進路指導 ・支援	<p>○生徒が主体的に進路目標の設定をし、実現のための行動が継続できるように、指導・支援の体制をつくる。</p>	<p>○進路に関する情報提供、スモールステップで活動できる進路計画を組織的に支援することで、進路実現への行動を促す。</p>	<p>○担当グループが中心となって体制をつくり、学年と連携して進路指導を行う。</p>	<p>○個別支援の実施状況や進路活動の経過の把握</p>	<p>○出願書類作成等の円滑な進行及び放課後等を活用し、組織的かつ積極的な面接指導が行えた。</p> <p>○進路ガイダンスにより、職業観の育成や進路決定のきっかけ作りができた。</p>	<p>○今後も適切な進路指導ができるよう何事にも必ず複数での確認にあたり、また、学年の進路活動の把握に努め、グループで共有して体制を整える。</p> <p>○進路活動報告を活用し、出願手続きや受験対策など最新情報を引き継ぎ、積極的に取り組む。</p>	<p>○生徒が主体的に進路目標を設定し、実現できるよう、組織的な指導を継続するとともに、生徒の挑戦の意識を高め、社会環境の変化に応じた個々の指導・支援をお願いしたい。</p>	<p>○進路活動全般において、生徒の活動が滞ることなく指導や出願手続き等ができた。学年と情報を共有し、組織的な支援ができた。新校としての進路指導「行ききたい大学」をめざり、進路指導の課題である。</p>	<p>○高校三年間の進路活動について、より見通しを立てた進路計画を作成する。受験対策にスタディサプリを積極的に活用するとともに、より良く活用できるように学習計画を作成し、実践する。</p>

視点	3年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価(2月21日実施)		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価(3月17日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4 地域等との協働	<p>①幅広い地域資源を活用した教育活動を行い、他者を尊重する態度や規範意識、豊かな人間性を育成する。</p> <p>②地域貢献活動やボランティア活動に取り組む意欲や行動力を育成する。</p>	<p>①昨年実施した1学年「総合的な探究の時間」における「地域ワークショップ」を継続していく。</p> <p>②地域貢献活動や「チームSDGs」の活動を充実させる。</p>	<p>①逗子高校の取り組みを引き継ぐだけでなく、地域との連携をすすめる。</p> <p>②生徒が主体的に取り組めるように支援する</p>	<p>①実施状況、担当者間の調整状況と生徒の取組状況</p> <p>②実施できた活動と工夫の状況</p>	<p>①逗子高校の取組を引き継いだ地域ワークショップを6月に、その発表会を7月と11月に実施した。生徒の取組状況もとても良かった。</p> <p>②「逗子グリーンフェスティバル」「クリーンセンター見学会」「ラン伴十」等のイベントに参加できた。「逗子グリーンフェスティバル」では生徒が自ら考えた工夫を行い、「ラン伴十」は生徒が企画段階から携わった。</p>	<p>①ワークショップの実施時期について、来年度は今年度同様、生徒たちの感性が瑞々しい早い時期の6月に設定するが、暑さと対策を考慮すると秋も候補となる。引き続きコーディネーター役の逗子文化プラザ市民交流センター担当者との連携を取り、検討していきたい。</p> <p>②3年生を中心に取り組んでいるので、下級生にもそれが引き継がれるように工夫をする必要がある。また、イベント引率の職員に手当てが支給されるようになれば、より継続的だろう。</p>	<p>①地域ワークショップに加え、逗子高校が取り組んできた小学1年生への交通指導を今年度は逗葉高校が引き継いでくれた。今後も地域の高校として、交流の充実を期待したい。</p> <p>②生徒主体の取組みは学びが多い反面、教職員の負担も大きくなる。働き方改革と両立のためにも地域の協働の推進が望まれる。</p>	<p>①ワークショップ実施後のアンケートを分析すると、7割以上の生徒が「新しい学びがあった」と回答した。ワークショップの試みは成功したと言える。半面、座席中心の講座については、体験できたという実感に乏しいという声も聞こえてきた。</p> <p>②有志生徒団体「チームSDGs」は環境問題や認知症に関連する多くのイベントに参加することができ、活動は軌道に乗ったと言える。</p>	<p>①逗子葉山高校でも継続的なイベントとしていくために、反省点を次のために、担当者を引き継ぎ、逗子文化プラザ市民交流センターと連携し、より生徒の実態に合致した講座の設定の協力を得る。</p> <p>②イベントを紹介される際の窓口や、イベントに生徒を引率する教員を複数確保し、手当を保障することが、意欲的な生徒の活動につながるだろう。</p>
5 学校管理 学校運営	<p>①新校開校に向けた準備を進め、地域や中学生に支持される新校として開校する。</p> <p>②在校生・保護者を第一に考え、安心安全な学校づくりを一層充実させる。</p> <p>③職員が心身ともに充実して生徒と向き合えるように、働き方改革を推進する。</p>	<p>①新校に係る情報の発信及び広報活動を積極的に行う。</p> <p>②生徒が安全で安心して学校生活を送れるよう環境を整える。ICTを活用して様々な情報を生徒・保護者に提供を行う。</p> <p>③円滑な情報共有、会議の短縮化等、働きやすい職場環境の整備を継続して行う。</p>	<p>①再編・統合にむけ、業務内容の円滑な情報共有及び効果的な広報活動を進める。</p> <p>②生徒が安全で安心な学校生活を送れるよう環境を整える。ICTを活用して様々な情報を生徒・保護者に提供を行う。</p> <p>③ICTを活用し、業務の是正を行い作業の効率化を図る。</p>	<p>①学校説明会の事後アンケート結果、ホームページ等での情報発信</p> <p>②生徒・保護者アンケート結果、ホームページ等での情報発信</p> <p>③職場アンケートの結果やグループウェアの活用状況</p>	<p>①新校を意識して学校案内ポスターや新入生説明会など、新入生・保護者・来場者から非常に高い評価を得た。地域在住の専門家によるワークショップと逗子両校の生徒の意見を校歌と校章ができた。</p> <p>②Wi-fi機器が1学年に新設され、ICT環境が整いつつある。</p> <p>③Teamsを使い、朝の打ち合わせ時間の短縮が図れた。</p>	<p>①11月から運用を開始した「逗子葉山高校」のホームページのさらなる充実を図り、新校の魅力について広く情報発信を行っていきたい。</p> <p>②新校に向けて、環境整備を引き続き行うとともに、一人一台端末について、授業での積極的な活用と授業参観等を通して教員間の情報共有を図る。</p> <p>③各グループでもTeamsを使い、会議時間の短縮を図る。</p>	<p>①これまでの逗葉高校、逗子高校の良さを引き継ぎ、地域の高校として愛される学校を目指してほしい。生徒及び保護者、地域の期待に応えるべく、変化の時期を好機と捉え、様々な挑戦をしていきたい。</p> <p>②高校でのICT整備及び活用状況は義務教育段階での指針になる。地域の高校として地域の牽引役をお願いしたい。学校の情報をより多く保護者に届けてほしい。</p> <p>③教職員の激務を解消するために効率化の工夫を引き続き追求してほしい。</p>	<p>①「挑戦できる居場所」として、新しい校歌、制服、校章を整った。令和5年度以降は、新たな伝統を作っていく過程を発信する姿勢が求められる。</p> <p>②新校に向けて、各ホームルーム教室に壁掛けのプロジェクトが設置された。また、逗子高校から無線アクセスポイントが3月中旬に移設され、さらにICT環境が充実する予定である。</p> <p>③朝の打ち合わせやグループの打ち合わせでもTeamsを活用することで、会議時間の短縮をすることができた。</p>	<p>①学校説明会での生徒による司会等、効果的であったと思われる。逗子葉山高校でも継続していく。全体的な様子や頻りにホームページ上で更新し、逗子葉山高校の新たな伝統を発信する役割を担う。</p> <p>②各ホームルーム教室にプロジェクトが設置され、Wi-fi環境も整備されたことから、各授業にてICTをより積極的に活用することが求められる。</p> <p>③引き続き、TeamsやGoogle Classroomを活用することにより、会議時間の短縮と生徒への連絡を徹底させる。</p>